

# 「房総」千葉介常胤を生んだ地①

## 武士政権誕生の大恩人

開府890年で「千葉氏サミット」が開催される千葉市。千葉原や千葉市の名称の根拠は、千葉一族が活躍し、その館を構えていたからこそ。日本の武家社会の礎を築き、武士の精神性をも培った千葉常胤。明治維新まで続く武士中心社会の中で千葉一族が果たした役割は図りしれない。パート4では、千葉常胤像を浮き彫りにし、埋もれた千葉の歴史と誇りを取り戻し郷土の活力としたい。



多賀譲治 プロフィール

多賀歴史研究所所長・元玉川大学教育博物館研究員。フィールドワークを重視した歴史研究を続け、NHKをはじめとした歴史番組の時代考証、新聞への連載、講演会などの活動を行っている。玉川大学・学園に設置された「鎌倉時代の勉強しよう」は鎌倉時代のWEB学習ページとして国内最大のもので、学校教育に限らず鎌倉時代に興味ある人にとって役立つ。著書に「知るほど楽しい鎌倉時代」(理工図書)などがある。

### 広常と常胤

「佐殿、介八郎めが来たら一喝なさいませ。くれぐれも大軍に怖じけてはなりませんぬ。これは千葉介常胤が頼朝の耳元にとささやいたであろう言葉。佐殿とは源頼朝のこと。介八郎とは大豪族「上総介広常」のことである。

「存知のように伊豆の荊山で旗揚げした頼朝は石橋山の合戦(1180年・現 神奈川県小田原市)で大敗を喫し窮地を脱してのち、かねてよりうち合わせの場所だった「安房」に上陸した。安房には頼朝を支えた相模の豪族三浦氏と関係の深い安西や丸の諸氏がいたためだ。

暗殺未遂や平家勢力との闘いの後、頼朝は体制を整えていよいよ鎌倉を目指すべく隅田河畔に陣を敷いていた。そこへ広常が揚々と大軍を率いてやってきたのである。吾妻鏡には「頼朝が大した人物でなければ首でもとつてしまおうと考えていた」と、書かれており、危険な存在でもあったわけだ。

広常は宴会の最中に頼朝が他の御家人に賜った水干をめぐつての大喧嘩をしたり、頼朝に会うまでも下馬をしないなど相当な態度のデカかった人物である。常陸の金砂城(現 茨城原大田市)を攻めたときには「話し合い」の誘いに出てきた佐竹義政を橋の上で誅殺するなど、思い切った行動にも出る。

この時代の豪族は独立心が強く、主人を選ぶものも人物次第。戦うときは親子兄弟で分かれ、負けた身内の助命嘆願という保険をかける合理性も備えている。そういう上総介の性格をよく知っていたのが同族の常胤である。

広常の剛胆だが単純素朴なところについて「広常、おせい」と頼朝に言われた。このとき、頼朝が「入らへ」とよび来てくれた。などと言っていたなら歴史は変わっていただろう。広常は坂東といわれた大軍を頼朝に差し出した。その結果、それまで敵だった者も日に見豪族たちが我も我もと頼朝の軍に加わったのである。

頼朝は敵対していた豪族たちを次々と赦し自分の軍に加えた。さらに、戦ごとに公正で公平な恩賞を与えたために豪族たちからの絶大な信頼を得た。坂東の武士たちに「八幡太郎」と半ば神格化されていた頼朝の祖先「源義家」の再来を彷彿とさせる行動である。このあたりは常胤など長老の意見を大いに取り入れていたに違いない。

### 人心掌握の達人

当時「坂東」といわれた関東地方はある意味での無法地帯で、開拓農場主たちは自分の土地や族の命を守るために武装した。境界や水利権をめぐつてのいざこざが絶えなかったのである。その

ために権威としての貴い血を求めた。それが国司として下り、後に土着した貴族や皇族たちの血脈である。しがたない地方豪族がこうした貴族や皇族の子孫と親戚となり箔をつけたわけだ。

ちなみに関東地方には桓武天皇の血をひく平高望王の子孫が多く散らばっていた。常胤・広常などの千葉氏や上総氏はもとより、相模の大豪族三浦氏、伊豆の北条氏など頼朝を支えていた有力豪族の殆どはの系譜の平氏なのである。

「源平の戦い」と呼ぶ方は後世の人間が勝手につけたもので、当事者たちは源平にはまったくこだわっていなかった。頼朝の命を受け広常に討たれた佐竹氏は頼朝と同族の清和源氏でもある。ちなみに当時の人はあの戦のことを「治承・寿永の合戦」と呼んでいた。

この後、鎌倉に上つた頼朝は軍を従えて平維盛と富士川で戦うわけだが、対峙していた維盛軍が突然撤退した際、逃げる敵軍を追撃しようとする頼朝を「足元を固めることが先決」と諫めたのも常胤だ。元々「鎌倉を本拠地としなさい」と頼朝に促したのも常胤で、こうした常胤の当を得た親身な助言に対し頼朝は「父とも思ふ」と頭を垂れた。

囚われ人で経験不足だった頼朝にとって人心の掌握術など、最も頼りにする存在だった

たに違いない。直情径行型の北条時政ではあまりにも頼り甲斐がないのだ。吾妻鏡元暦2年3月11日の記には弟範頼の手紙として「およそ、常胤の大功においては生涯さらに報謝を尽くすべからざるの由」と書いている。

### 常胤と明治維新

鎌倉に誕生した武士の政治はそののち700年間続き、明治維新成功の原動力となった。功罪は別として、近代化に成功し白人の超大国ロシアを打ち破たその事実は、植民地となつたアジア・アフリカ諸国の独立に大きな影響を与えた。

日本という国に高い教育と精神性を持った武士の時代があつたからこそ、この言わざるを得ない。もし、この時に武士の政権が出来なかつたらその後の日本の姿は大きく変わっていたに違いない。当然のことながら世界史の中でその役割も異なっていたら。その武士の世を創り上げたのは頼朝一人の力ではなく、一族の繁栄と安寧を望んだ坂東武士たちの強い思いが大きな原動力となっている。中でも常胤は劣勢だった頼朝をいち早く支え、進むべき道を示した人物として大きな役割を果たしたのである。

この後、8月までの連載をとおして、千葉介常胤の生きた時代と、千葉という土地の持つ歴史的意義について語ってみたいと思う。

千葉開府  
890  
1126-2016

千葉市のルーツ「千葉氏」  
890年前、この開かれた。

千葉市

千葉信用金庫  
千葉市中央区中央2丁目4番1号  
TEL: 043-225-1111 (大代表)  
http://www.shinkin.co.jp/chibaskb/